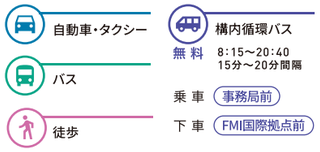
ACCESS MAP

SAPPORO

産学・地域協働推進機構

◎産学連携推進本部
◎社会・地域創発本部
◎スタートアップ創出本部
◎産学連携グローバル推進室





TOKYO



産学協働サテライト室
（東京オフィス内）

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1 丁目7-12
サピアタワー10 階 北海道大学東京オフィス

【アクセス】
JR 東京駅「日本橋口」より徒歩1分
東京メトロ東西線「大手町駅」B7 出入口より直結

※ご来訪の際は事前に登録が必要です

ワンストップ窓口 WEBサイト
https://www.mcip.hokudai.ac.jp/about/onestop.html

北海道大学 研究シーズ集 WEBサイト
https://seeds.mcip.hokudai.ac.jp/

最新イベント情報が充実! 北海道大学産学連携メールマガジン

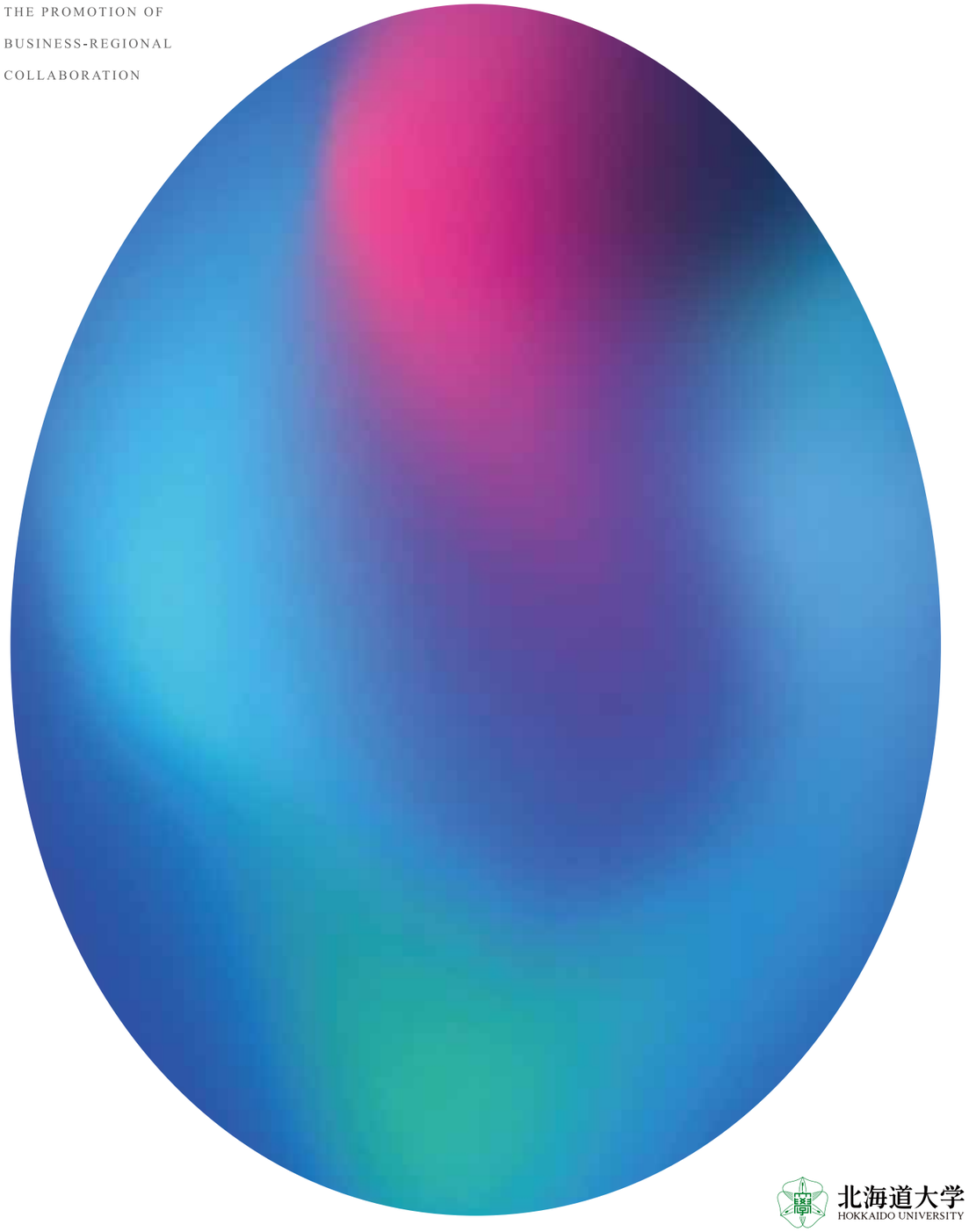
北海道大学の研究成果や研究者、イベント情報など産学連携にかかわる様々な情報を不定期にお届けいたします。
配信ご希望の方はQRコードよりご登録ください。

北海道大学 産学・地域協働推進機構 〒001-0021 北海道札幌市北区北21条西11丁目 https://www.mcip.hokudai.ac.jp/
【産学連携推進本部】北キャンパス総合研究棟3号館2階　【社会・地域創発本部】フード&メディカルイノベーション国際拠点1階
【スタートアップ創出本部】北キャンパス総合研究棟3号館3階　【産学連携グローバル推進室】北キャンパス総合研究等3号館2階
【産学協働サテライト室（東京オフィス内）】東京都千代田区丸の内1丁目7-12サピアタワー10階

産学・地域
協働推進機構

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

INSTITUTE FOR
THE PROMOTION OF
BUSINESS-REGIONAL
COLLABORATION



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

「光」は「北」から。
「北」から「世界」へ。

北海道大学は、2026年に創基150周年を迎えます。
記念すべきマイルストーンの年、
唯一無二の「比類なき大学」を目指します。

合言葉は、「光は、北から」。

この「光」とは、
大学として積み重ねてきた教育と研究の成果です。

産学・地域協働推進機構の使命は、
その「光」を、研究室の中に留めることなく、
地域へ、社会へ、そして世界へと届けていくこと。

北海道大学の「光」を、
次の時代の希望へとつなげていきます。

研究を、社会へ

北海道大学は、2026年に創基150周年を迎えます。産学・地域協働推進機構は、この長い歴史の中で培われてきた研究力と、多様な知的資源を、社会へとつなぐことを目的に活動しています。研究成果を論文や研究室の中に留めるのではなく、社会の中で活かされる価値へと翻訳していく。それが、私たちの出発点です。

社会に、光を

私たちは、大学と社会を結ぶ“橋渡し役”として、社会・産業・地域が直面するさまざまな課題に向き合っています。企業との共同研究や技術移転、人材育成、大学発スタートアップの支援、地域自治体との協働。こうした取り組みを通じて、研究の知見を現場につなぎ、課題の本質に光を当てる共創の場をつくっています。

光を、もっと遠くへ

産学連携・地域協働のハブとして、研究成果が社会に届く速度と質を、さらに高めていきます。フィールドサイエンス、環境、ライフサイエンス、食、地域創生など、北海道大学が強みを持つ分野を中心に、研究開発から事業化までを見据えた連携を強化。国内外の多様なパートナーとともに、新たな価値創造を実現する、開かれた協働のプラットフォームを目指します。

01 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

地域から、世界まで。

産学連携を支える組織体制

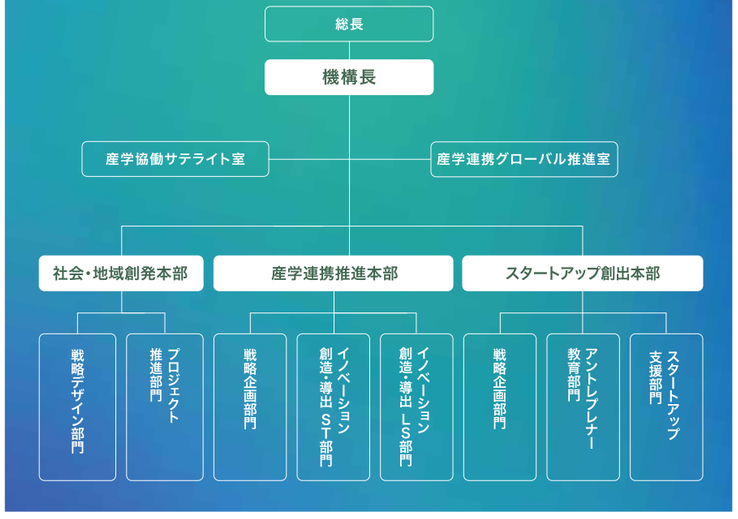
産学協働サテライト室

首都圏を中心に産学協働を推進する窓口。道外での産業創出・共同研究パートナー、特許ライセンス先、支援者の発掘・調整・フォロー等、情報の収集と発信を行っています。

産学連携グローバル推進室

海外における情報収集・発信と国際連携を推進。国際共同研究・技術移転に向けた海外連携のほか、研究シーズ・北大発スタートアップの海外展開を支援するハブとして機能します。

組織図 ORGANIZATION



産学連携推進本部

大学全体の産学連携の窓口、司令塔として活動を行っています。

戦略企画部門

産学連携に関する企画立案をはじめ、契約法務、知的財産権等の管理、北大ブランド商品の企画・推進、業務システム管理などを担当しています。

イノベーション創造・導出ST部門

ST（Science and Technology）分野に関する部門。化学バイオや工学、情報科学などの分野に精通した産学協働マネージャーを配置。研究シーズの発掘・価値向上、知的財産の権利化、技術移転活動を担当しています。

イノベーション創造・導出LS部門

LS（Life Science）分野に関する部門。ライフサイエンスや生物有機化学、創薬化学などの分野に精通した産学協働マネージャーを配置。研究シーズの発掘・価値向上、知的財産の権利化、技術移転活動を担当しています。

社会・地域創発本部

研究領域を横断する異分野融合を推進する産学官金地域連携拠点です。

戦略デザイン部門

地域が抱える社会課題の解決や地方創生を加速させるため、データ分析や産学官連携の戦略を立案・推進する部門。データ活用やDXなどを通じて、地域デザインを描き、具体的なプロジェクトへと繋げる役割を担います。

プロジェクト推進部門

COI-NEXT「こころとカラダのライフデザイン共創拠点」の活動や各コンソーシアムの拠点として機能。市民、自治体・企業・他大学との連携に奔走します。

こころとカラダのライフデザイン COI-NEXT

スタートアップ創出本部

スタートアップ支援とアントレプレナーシップ教育を行う組織です。

戦略企画部門

スタートアップ創出本部全体の戦略立案を担う部門。アントレプレナー教育部門・スタートアップ支援部門の活動のサポートもしています。

アントレプレナー教育部門

創造性・積極性・革新性を涵養するアントレプレナーシップ教育を展開。社会課題を解決する能力の育成や起業に必要な知識・スキル・マインドの習得支援を行っています。

スタートアップ支援部門

本学の研究成果等を活用して設立される大学発スタートアップ企業等の創出を支援。スタートアップ企業等への支援を担う人材の育成も行っています。

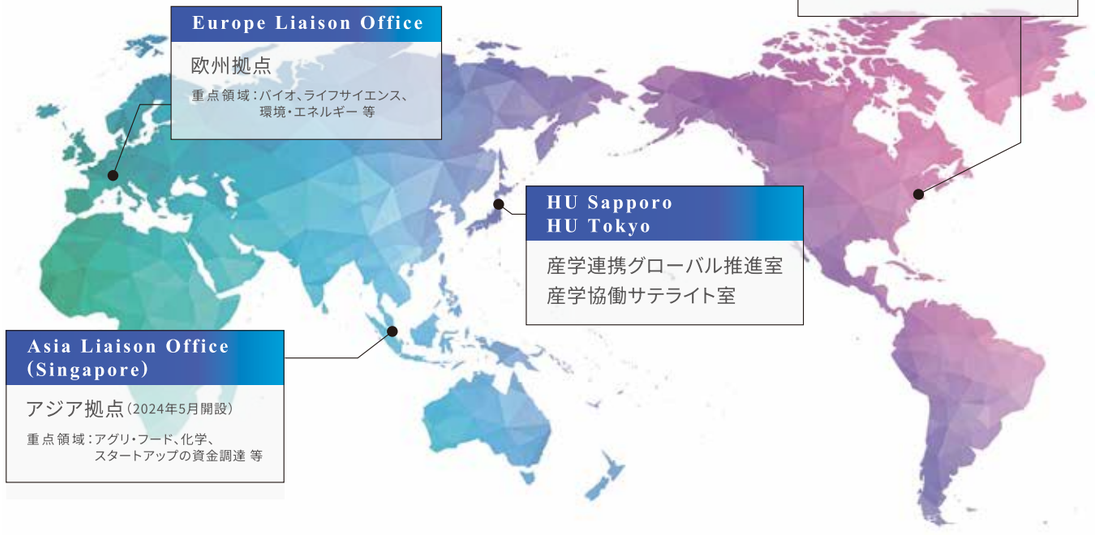
02 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

産学連携グローバル拠点

各地域に設置した拠点を通じて、世界を俯瞰したグローバルな産学連携活動の推進及び強化を行っています。

海外拠点の主な機能

- 現地コミュニティでのネットワーク形成
- 現地情報収集・情報提供
- 技術移転先企業の情報収集・提供
- 北大発スタートアップ企業の展開支援
- イベント開催・参加支援



海外活動実績

北海道大学の優れた研究シーズを国際的なイベントで提案。
グローバルな視点で企業連携と社会実装を加速しています。

NORTH AMERICA 北米

世界最大級のバイオテクノロジーイベント

BIO International Convention

BIO International Convention 2024 in San Diego
BIO International Convention 2025 in Boston



EUROPE 欧州

欧州最大級のバイオカンファレンス

BIO-Europe

BIO-Europe 2024 in Stockholm
BIO-Europe 2025 in Vienna
BIO-Europe Spring 2025 in Milan



欧州最大規模のエレクトロニクス展示会

electronica

electronica 2024 in Munich



世界最大級の国際電子部品製造機器見本市

productronica

productronica 2025 in Munich



ASIA アジア

東南アジア最大級のスタートアップイベント

SWITCH

SWITCH 2024 in Singapore

会期中に北大が海外初のピッチイベントを開催
SNOW TECH 2024 in Singapore



アジア最大級のアグリフード・農業技術の展示会

AFTEA 2025 in Singapore



北海道大学150イニシアティブイベント

Hokkaido University 150 Initiative in Singapore 2025



03 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

数字で見る北大の産学連携

北海道大学の産学連携は、共同研究、知的財産、スタートアップ創出の各分野で、近年、継続的な成長を続けています。研究活動を起点とした取り組みが広がり、社会実装や事業化へと進むケースが増えています。本ページの数字は、北大の産学連携が次のフェーズへと進んでいる現在地を示すものです。

COLLABORATIVE RESEARCH
共同研究

実施件数

640（2016年度） ▸ 743（2020年度） ▸ 866件（2024年度）

受入額

13.5（2016年度） ▸ 23.3（2020年度） ▸ 30.7億円（2024年度）

ACADEMIC CONSULTING
学術コンサルティング

実施件数

33（2018年度） ▸ 69（2020年度） ▸ 171件（2024年度）

受入額

0.11（2018年度） ▸ 0.57（2020年度） ▸ 1.78億円（2024年度）

INDUSTRY CREATION
産業創出講座

実施件数

11（2016年度） ▸ 26（2020年度） ▸ 28件（2024年度）

受入額

2.12（2016年度） ▸ 3.98（2020年度） ▸ 5.39億円（2024年度）

DONATION
寄附金

21.62（2016年度） ▸ 27.92（2020年度） ▸ 33.01億円（2024年度）

COMMISSIONED RESEARCH
受託研究

実施件数

646（2016年度） ▸ 643（2020年度） ▸ 810件（2024年度）

受入額

57.4（2016年度） ▸ 64.8（2020年度） ▸ 109.2億円（2024年度）

DONATION COURSE
寄附講座

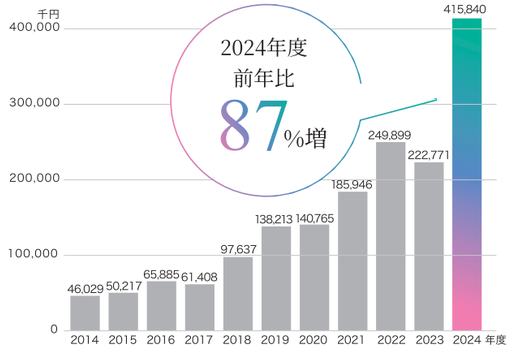
実施件数

17（2016年度） ▸ 28（2020年度） ▸ 20件（2024年度）

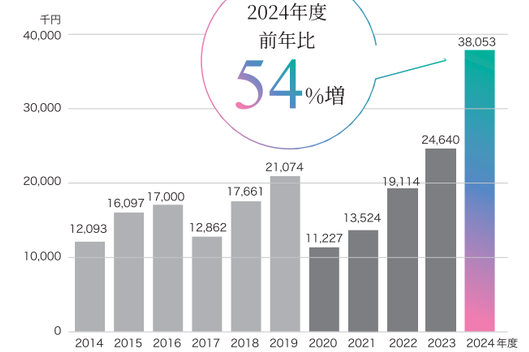
受入額

3.85（2016年度） ▸ 5.85（2020年度） ▸ 8.11億円（2024年度）

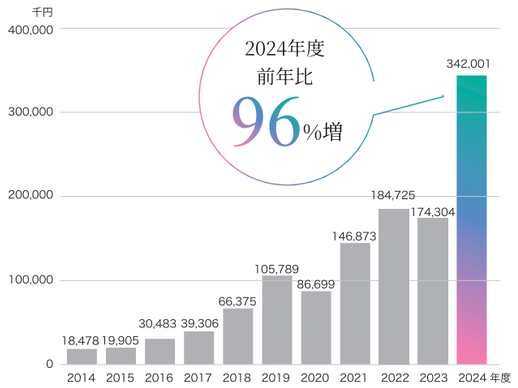
知的財産権等収入



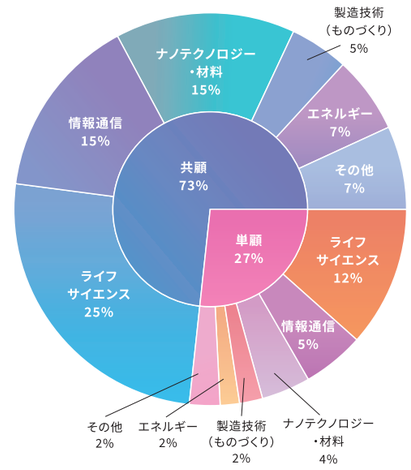
商標権収入 5年連続全国1位



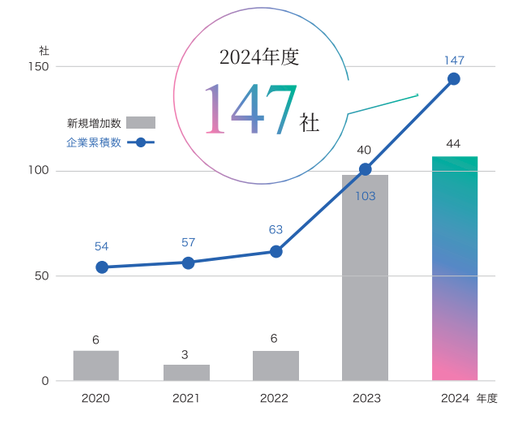
特許権実施等収入



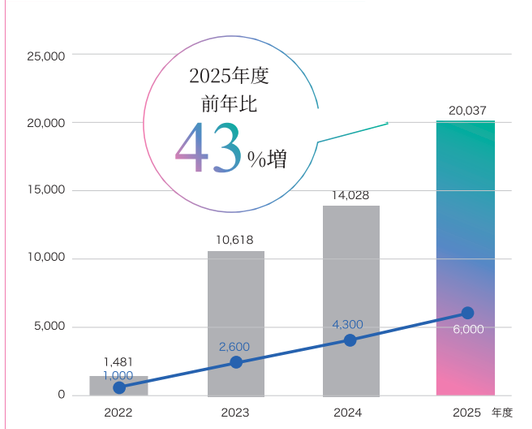
保有特許の技術区分内訳



大学発ベンチャー企業数等の推移



アントレ教育 受講者数



04 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

目的に応じて選べる、連携のかたち

産学連携メニュー

産業創出講座

本学と企業等がイコールパートナーシップの下、双方からの研究者が参画し、本学内にラボを創設。継続的な共同研究を実施する制度です。



専任教員のうちから、
産業創出講座等の
業務を兼務する者

専属コーディネーターの支援や
大学の最新設備をフル活用！
組織対組織型の大型共同研究が行えます。

本学に特任教員として採用された者
（特任教授、特任准教授、特任助教）
または本学に招へい教員として認定された者



「産学協働マネージャー」が、企画立案、学内連携、成果活用、広報までを一体的に支援を行います。

設置要件

❶産業創出講座の理念を双方で共有していること
◎組織・組織型の共同研究を実行する意思　◎イコールパートナーシップの尊重
◎ミッションとゴールの共有
❷企業が本学に研究室を設置し（最低条件2年間）、共同研究を行うこと
◎企業と本学が、相互に人材を提供すること
❸企業の研究担当者と本学の研究担当者（教員）が、協働しながら共同研究を行う体制が実現できていること
❹新事業創造を目指す具体的な計画が存在すること

【研究費】原則2,000万円以上/年
【間接経費】30%
【研究場所】大学内にラボを設置
【設置期間】2～5年（更新可）
【最終目標】事業化/製品化

※ラボ資料及び企業からの研究者派遣受け入れに伴う費用が生じます。

12講座が「産業創出講座」を設置

FMI国際拠点

（フード&メディカルイノベーション）

食・医療・健康分野で新たな事業創出を目指す産学連携のインキュベーション施設。
企業や研究機関、自治体などが連携し、健康情報や予防医療、創薬などをテーマに
共同研究や人材育成を行う場を提供しています。






その他の産学連携メニュー

共同研究

本学の教員と企業等の研究者が、対等の立場で共通の課題について共同で研究を行う制度。



企業だけでは解決できない課題を、最新の知見を持つ北大研究者と共同して研究することができます。

【研究費】平均360万円/年（2024年度実績）
【間接経費】30%　【研究場所】研究室
【契約期間】任意　【知財の取扱】発明の貢献度による
【最終目標】研究成果の創出/実証研究

学術コンサルティング

企業等からの依頼を受けて、本学の教職員が専門的知識に基づいて指導または助言を行う制度。

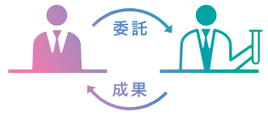


最新の知見を持つ北大の研究者等から、学術相談などのコンサルティングを受けられます。

【コンサルティング料】両者協議で決定
【間接経費】30%　【契約期間】任意
【最終目標】課題解決/プレ共同研究

受託研究

企業等からの依頼を受けて、本学の研究者が契約に基づき研究を行い、その成果を委託者に報告する制度。



研究については「お任せ」いただき、北大の研究者が単独で研究を行った成果を委託者に報告いたします。

【研究費】両者協議で決定　【間接経費】30%
【契約期間】任意　【知財の取扱】原則、本学帰属
【最終目標】受託の目的による

寄附講座

企業等からの寄附により、大学の自主性および主体性のもとに講座等を設置・設営し、教育研究の活性化を図る制度。



寄附者名が明らかになる名称または教育研究内容を示す講座名称を付すことができます。

【期間】2～5年（更新可）【知財の取扱】原則、本学帰属

寄附金



寄附金は寄附いただいた研究分野や研究者の自由意志で研究テーマや期間を設定し、教育研究を実施します。

研究成果の活用

ライセンス契約



本学保有の特許権等のライセンスをご希望の場合、本学と契約をご締結いただきます。手続き全体で1～3ヵ月かかります。

特許ライセンス契約

本学が保有する特許権等のライセンスをご希望の場合には、本学とライセンス契約を締結いただきます。契約は、特定の企業のみが独占的に特許発明を実施できる「独占的通常実施権」、複数の企業が特許発明を実施できる「非独占的通常実施権」の他、オプション契約などがあります。

臨床研究データライセンス契約

本学が実施した臨床研究により得られたデータ等を利用する際、必要となる契約です。

成果有体物提供契約（MTA）

「成果有体物」とは、研究の成果または研究を行う過程において得られた試薬、試料、実験動物、菌株等の有体物のこと。化合物だけではなく、デバイス、装置なども同様に取り扱われます。

商標ブランド使用許諾契約

本学の研究成果や成果物を活用して開発された商品に対し、本学のシンボルマークや名称使用を希望される場合は、「商標使用許諾契約」を締結していただきます。

北海道大学
ワンストップ窓口

事業展開・起業のご相談

本学の研究成果を活用して新たに会社を設立し、事業展開をお考えの方や、起業に興味・関心のある北大研究者や教職員、大学生及び大学院生などを対象に専門の相談窓口を開設しています。何から始めればいいかなど初歩的なサポートも行っています。まずは、お気軽にお問い合わせください。

北大スタートアップ
事務局ご相談窓口

05 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

北大ブランド
HOKUDAI BRAND

北大ブランドは、1876年の札幌農学校創基以来、150年に渡り培われてきた理念と実践の結晶です。フロンティア精神に基づく挑戦心、国際性・多様性を尊重する開かれた校風、実学による社会貢献が結びついた北海道大学にとってかけがえのない無形資産であり、学生・卒業生・教職員の誇りとなっています。

北大ガゴメ®

水産科学研究院が研究した海洋栽培方法により栽培されたガゴメ昆布です。粘り成分フコイダンが、天然ガゴメに比べ、約2倍含まれています。食品をはじめ、化粧品やサプリメントに利用されています。




北大牛乳

札幌キャンパスの農場で育てられた乳牛から絞られた牛乳。育て方により、夏と冬で風味が変わるのも特徴的。北大マルシェ（百年記念会館）で飲めるほか、レストランのメニューやスイーツ、お菓子などを販売しています。




北大短角牛

北大短角牛は、傾斜のある牧草地での放牧を主体に育てられた、日本短角種（和牛）です。旨味がつまった赤身のお肉が特徴です。静内研究牧場では土地利用型の家畜生産システムに関する教育研究を行っています。






北大ラズベリー®

北方生物圏フィールド科学センター星野研究室が15年かけた品種改良によって生まれたラズベリー。現在、道内に生産農家を拡大中です。北海道の名産を目指しています。

北大ラズベリー®
HOKUDAI RASPBERRY






北大ブランド認定商品

北大ブランド認定商品は「北大ブランド」として認定し、北海道大学の名称やロゴマークの使用を認めた商品群です。
一部の商品は学内の店舗だけではなく、各企業の店舗や土産物店、インターネットでも購入することができます。



ポプラ並木を救った北大ブランド商品

札幌農學校 北海道ミルククッキー

2004年の台風18号により、本学の象徴であるポプラ並木は甚大な被害を受けました。この被害を憂われた株式会社きのとや（当時）から、「新たな菓子を開発し、売上を緑化支援として寄付したい」とご提案いただき、北海道産素材にこだわった、銘菓「札幌農学校」が誕生しました。

学生と教職員、企業が協働して生み出されたオール北大米の日本酒

北海道大学 純米吟醸
北の閃き（きたのひらめき） 日本清酒株式会社

北大農場の水田で育った酒米「きたしずく」を100％使用した純米吟醸酒。創基150周年記念事業として、学生と共に米作りから醸造まで行いました。ラベルには学生公募で大賞を受賞した野村郁子さんの作品が採用されています。





北大ラズベリー®を使用した「北大の実り」シリーズが続々商品化

“北大ラズベリー®” を使用した「北大の実り 北大ラズベリーシリーズ」は、ロールクッキーやクランチチョコなどがラインナップされ、北海道の新たな定番土産を目指しています。「北大の実り」には、大学の農場生産物や研究成果などの様々な「実り」を商品化していきたいという願いが込められています。



詳しくは公式サイトへ「北大ブランド HOKUDAI BRAND」

https://brand.mcip.hokudai.ac.jp/

北大ブランドの魅力を広く発信する専用ホームページを開設。認定商品の一覧や、これまでの歴史をわかりやすく紹介しています。商品が生まれた背景や詳細をご覧いただき、北大ブランドの魅力を感じていただけたら幸いです。

06 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

スタートアップ支援

研究成果の社会実装を“起業”という形で支援する
スタートアップ創出本部の活動内容・支援メニュー

北海道に、起業家精神を。
アントレ教育

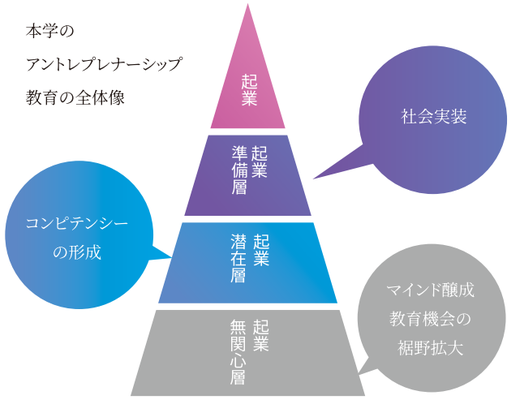
起業のハードルを下げる
起業支援

社会実装をサポート
北大発認定SU制度

北海道に、起業家精神を。
アントレプレナーシップ教育

アントレプレナーシップとは、「変化をチャンスと捉え、自ら進んで行動し、価値を生み出すことができるためのマインドやスキル」のことを指し、これからの変化の激しい世の中を生き抜くために、誰もが必要なものだとされています。私たちは、「社会実装」に必要な実践的知識・スキルはもちろん、起業家特有の行動特性や思考パターンといった「コンピテンシーの形成」や、リーダーシップ・創造力・失敗を恐れない姿勢など、「起業家マインドの醸成」に取り組み、北海道におけるアントレプレナーシップの裾野拡大も視野に入れて活動しています。

本学の
アントレプレナーシップ
教育の全体像



すべての世代に、挑戦する力を。



小学生から社会人まで、段階に応じた体系的な教育プログラムを展開しています。年間受講者数は20,000人を超え、地域・社会の課題に挑み、新たな価値を創出できる人材を育成しています。北海道から次代を切り拓くアントレプレナーの輩出を目指します。

企業や自治体と連携したプログラムを展開



自治体や企業と連携した講義や学術コンサルティング制度を活用して実施するイベントなど、数多くの連携教育プログラムを展開しています。

海外の起業文化や技術に触れる体験も



海外の大学やスタートアップ・エコシステムと連携したプログラムで、海外の起業文化や技術トレンドを体感する機会を創出。国際的なネットワークを構築することにもつながります。

チーム北海道で
スタートアップを育成中!

HSFC（エイチフォース）

北海道未来創造スタートアップ
育成相互支援ネットワーク

2021年より組成している、研究開発型スタートアップの創出・育成を推進するための全道プラットフォーム。2025年度時点で、北海道内の21大学と5つの高専・専門学校、自治体、金融機関、地域の企業等が加わるネットワークに成長し、研究シーズの発掘から、その先の起業、事業拡大に必要なサポート体制の構築を推進しています。

詳細はこちらをご覧ください▶

HSFC
HOKKAIDO STARTUP FUTURE CREATION
DEVELOPMENT BY MUTUAL SUPPORT NETWORKS

資金面・環境面で北海道の起業をサポート!

起業支援

アイデアを事業にするための相談から、ファンドプログラムの展開、複雑な法人設立の手続きまで、専門家がマンツーマンで伴走支援します。まずは「こんな研究・アイデアがある」とカジュアルに相談することからスタートでき、自治体や専門家チームがあなたの最初の一歩を全力でバックアップします。

起業を資金面で支援

GAPファンド

研究成果をビジネスへとつなぐ際、その間に立ちはだかる「ギャップ」を乗り越えるためのプログラムです。大学独自の資金で市場価値を証明します。

支援内容
◎ビジネスモデルの精査
◎プロトタイプの開発
◎実験・計算結果などの仮説検証

地域特性・研究の特色を生かした3つの重点領域を設定しています。

アグリ・フード領域



気候・社会情勢の変化による食糧課題全般へ対応。農業はもちろん水産・林業の各所での技術革新等。

環境・エネルギー領域



脱炭素・再エネへの転換等、次世代エネルギー課題へ対応。北海道の重点領域 宇宙系シーズにも対応。

創薬・ヘルスケア領域



高齢化課題・ウェルビーイングの視点での健康・医療課題への対応。

起業支援のポータル

HX（エイチクロス）

広域エリア統合プレインキュベーション拠点

コワーキングスペースとしても利用でき、
起業時の登録住所（本店所在地）の
設定が可能

https://www.mcip.hokudai.ac.jp/business/venture/hx/



社会実装を強力サポート

「北大発認定スタートアップ企業」称号付与制度

本制度は、北大の研究成果を社会実装するために起業したスタートアップ企業などを大学がサポートする制度です。北大の知的財産や研究成果の事業化、教職員・学生の起業、大学との共同研究実施などが要件で、認定されると大学公認のロゴマーク使用権などが与えられます。

HOKKAIDO UNIVERSITY START UP

制度の詳細はこちら

主なメリット
認定ロゴによるブランド力UP
大学の施設や特許の優先活用
資金調達や経営の伴走サポート

認定企業

2025年度時点で、累計95社が認定を受けています。

Letara株式会社
2021年度認定

工学研究院 永田晴紀教授らの研究成果を基に同研究室の平井翔大氏、ランドン・ケンプス氏によって起業。宇宙空間で短時間の移動を実現する、プラスチックを燃料とした、安全、高推力、かつ安価なハイブリッド科学推進システムを開発。

遠友ファーマ株式会社
2022年度認定

先端生命科学研究院 西村紳一郎教授の研究成果を基に起業。糖鎖がつくる動的エピトープを狙う新たな創薬標的探索および薬剤送達に係る創薬支援を行う。

株式会社AQSim
2024年度認定

水産科学研究院 高橋勇樹准教授の研究成果を基に同研究室の倉橋康平氏によって起業。養殖シミュレーションを用いて収益性の高い養殖システムの構築・販売を行い、養殖業の導入から出口まで伴走支援を展開する。

協力機関
大学・高専・専修学校 /
地方自治体 / 金融機関
民間企業 / 支援団体 など
約40機関が参画

主幹機関（北海道大学）
◎全体の戦略策定
◎ネットワーク構築
◎研究者等の起業支援
◎各プログラムの運営

共同機関
大学・高専など
約20機関が参画
◎研究者等の起業支援
◎各プログラムの運営

産学官金の連携を
強化しアントレプレナー
シップ教育とスタート
アップ創出を推進

07 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

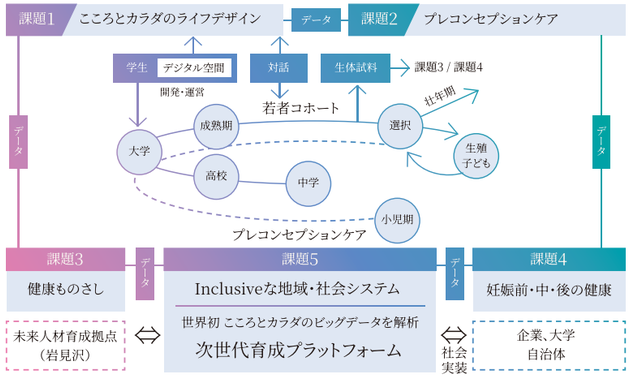
社会・地域創発本部（S-RED）の活動内容

地域協働プロジェクト

S-REDは、研究領域を横断する異分野融合を推進し、新しい価値を創造する「場」、市民、自治体・企業・他大学との融合の「輪」を構築していく組織です。「社会イノベーション」を目指し、世界、日本、北海道、地域の課題に対して、「繋がる・拡がる連携」をミッションに活動しています。

活動事例 01 北大、共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）、地域共創分野 こころとカラダのライフデザイン共創拠点（2021～2030年度予定）

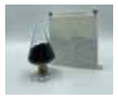
共創の場形成支援プログラムは大学・国立研究開発法人、企業及び自治体等の多様な機関の参画型の研究チーム・運営体制により産学連携共同研究を行うプログラムです。北海道大学COI-NEXT「こころとカラダのライフデザイン共創拠点」をつくり、「若者が、自分の選択肢を増やすことができ、他者（ひと）とともに、自分らしく幸せに生きる社会」の実現を目指しています。また、社会課題である少子化の改善に向けた活動を推進しています。



プレコンセプションケアとは

小児期から成人期まで成長段階にあわせて、こころとカラダの健康、家族、ウェルビーイング、尊厳などを学ぶ、妊娠前からのヘルスケアのこと。

活動事例 02 フードロス削減 コンソーシアム



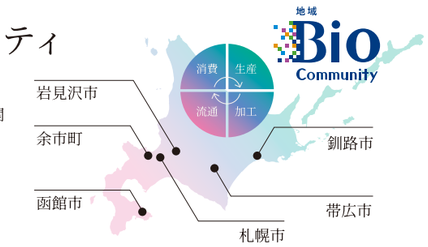
プラチナ触媒
フードロス削減コンソーシアム認定



北海道大学と（株）セコマ、北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、北海道立総合研究機構の4者で、青果物などの鮮度保持技術の活用でフードロス削減を目指すコンソーシアムを設立しました。北大が開発した「プラチナ触媒（※）」を用いた鮮度保持技術の実証実験を幅広く行うことで早期実用化を目指しています。現在、企業や自治体らも会員として活動しており、皆様の参画を募っています。

（※）プラチナ触媒：シリカ上にプラチナの微粒子が担持されている触媒。0℃の低温状態においても、熟成や鮮度低下に影響するエチレンガス の酸化分解が可能で、青果物の鮮度保持効果が確認されている。

活動事例 03 北海道プライムバイオコミュニティ



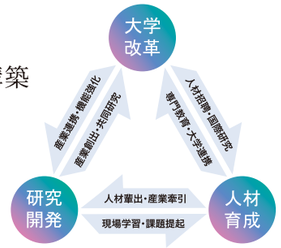
魅力的で持続的な一次産業へ、農業、水産業、林業の強化及び高度化を目指すコミュニティです。参画機関が持つ機能やリソースを提供し、それらを連携させることで、北海道で、新たな産業を構築していきます。

- **一次産業者**
  産業の担い手として、高度な手法を実装し、魅力的な一次産業を実現
- **自治体**
  コミュニティの活動の基盤となるフィールド構築や人材育成
- **教育研究機関**
  新しい産業を実現する技術革新において中心的な役割を果たす
- **企業**
  実証した技術等を、製品やサービスとして実装し、市場拡大等の取組みを実施

北海道の豊かで多様なフィールドを活用し、生産・加工・流通・消費の各段階を支える組織を集結し、幅広い北海道の一次産業（Primary Industry）のバリューチェーン（＝プライムバイオバリューチェーン）を強化します

活動事例 04 地方大学・地域産業創生交付金(まち・ひと・しごと) 魚介藻類養殖を核とした持続可能な水産・海洋都市の構築

～地域カーボンニュートラルに貢献する水産養殖の確立に向けて～



函館市では、海洋環境の変化に伴い漁獲量が激減し、高収益かつ安定供給可能な水産物の創出が急務であるため、地の利（寒冷環境、北大水産・工業技術センター等の存在）を活かしたキングサーモンとコンブの完全養殖生産を合わせて行う地域カーボンニュートラル（RCN）養殖研究を推進し、その現場での教育研究により企業と若者を集め地域に定着させることで、持続可能な水産・海洋都市の実現を目指しています。

08 INSTITUTE FOR THE PROMOTION OF BUSINESS-REGIONAL COLLABORATION

どうして今、「北大」なのか。

北海道大学の強み

1 THEインパクトランキング2025で 6年連続国内1位を獲得



「THEインパクトランキング」は、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE：ティー・エイチ・イー）が、大学の社会貢献の取り組みを国連のSDGsの枠組みを使って評価しランキングを行うもので、「SDG2. 飢餓をゼロに」では世界2位、総合ランキングでは2,318大学中44位と高い評価を受けています。

2 国内屈指の多様な学部・研究科



文・法・経済・教育・理・医・歯・薬・農・獣医・水産・工学部の12学部が設置され、幅広い学問領域をカバー。複雑化する社会課題に対し、分野を越えた研究が日常的に行われています。

3 北海道そのものが研究フィールド



北海道という立地そのものを研究フィールドとし、伝統的な農学、獣医学に加え、過疎高齢化、インフラ、地域医療など、広域な北海道が抱えるさまざまな課題に対し、教育・研究の両面から取り組み、社会に貢献しています。

4 国内最大級のキャンパススケール



札幌キャンパスの面積は約1.8km²、研究林などを含めると660.2km²（約7万ヘクタール）と、国内の大学で最大の面積を有しています。演習林、牧場、農場、沿岸域、寒冷地環境などを活用した実証性の高いフィールドサイエンスが展開されています。また、水産学部を除くすべての学部が札幌キャンパスに集約されており、部局の垣根を越えた連携が活発に行われています。

5 世界水準の研究基盤



先端的な分析・計測機器や試作・評価設備を整備し、基礎研究から応用・実証までを一貫して支える研究基盤を構築しています。2010年および2021年には本学の研究者がノーベル化学賞を受賞するなど、世界水準の基礎研究を生み出してきた実績が、本学の研究環境を支えています。

150th HOKKAIDO UNIVERSITY

150年続く実学の蓄積

2026年に創基150周年。社会と向き合う実学を積み重ねてきた時間が、現在の強みを支えています。